



平安神宮

|| ↑ || □ 入口 ||

みやこめっせ ●

地下鉄 東西線

京都国立近代美術館

www.momak.go.jp

♦ 神宮丸太町駅

地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分

上映時間 各回14:00-18:00頃 (開場は13:30 同時開催中の展覧会

上映作品, 各回のスケジュールについては京都国立近行 美術館HPにてご確認ください。

料金 1プログラム 520円 (当日券のみ) ポスターにみる ミュージカル映画の世界 *当日に限り、本券でコレクション展もご覧いただけます。

会場 京都国立近代美術館 1階講堂

当日13:30より当日分のすべての作品の整理番号つ 入場券を販売、開場します。各回入替制です 2回目は上映開始の10分前に開場します。 会場内での飲食はご遠慮ください。

主催 京都国立近代美術館(MoMAK) 東京国立近代美術館フィルムセンター(NFC)



企画協力 北小路隆志(映画評論家/京都造形芸術大学准教授 板倉史明(神戸大学大学院准教授)

現代美術のハードコアはじつは世界の 〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町 TEL 075 761 4111 宝である展 ヤゲオ財団コレクションより

会期 2015年3月31日[火] — 5月31日[日]

会期 | 2015年6月6日(土) -- 8月16日(日)

北大路魯山人の美 和食の天才

会期 | 2015年6月19日(金) - 8月16日(日)



MoMAK F

◆ ○○5 ◆ 今日の「映画状況」をめぐっ。

る主体は認めるはずである。自分は映画館から ラルな意味での全面化を、僕らはいま経験しつ 出るのが好きだということを。街灯のともった、人 つあるのだろうか。 もまばらな通りに出て(彼が映画館に行くのは、 それでも存続するであろう映画館は、すべて いつも、ウィークデーの夜である)、物憂げに、適の行為や事物が美的なもの(アート=個性的なラ 当なカフェに向かう。黙ったまま(彼は今見たば イフスタイル!)と化したポストモダンの社会にお かりの映画について語るのがあまり好きでない)。 ける美術館に近づくのではないか。無数の美的 いくらかぼんやりと、首をすくめ、寒そうに、要す な行為や事物のなかから、これがアートであり、

るに、眠そうに。…」(沢崎浩平訳)

「催眠術」にかかったような軽い脱力状態…。し とはなにか。 かし、それは必ずしも映画を観る体験そのもの 京都国立近代美術館で映画を観終えたあな に因るものではない。バルトによれば、都市を たの前には、観光客で賑わう雑踏が広がり、「適 状態にあって「映画状況」を生きるのだ。

快楽や意義も強調される点にある。いまや映画の深々とした参与にして、それについての思考を を観るうえでの特権的かつ独占的な空間として

育むための実践となるはずだ。 の「映画館の闇」の覇権は壊滅的に揺らぎ、「映画 館の外」に映画(らしきもの)が溢れかえる(バルト が「映画館」と敵対する空間とした「家庭」から、人 北小路隆志 ロラン・バルトによる美しいエッセイ、「映画館 が携帯するもろもろの小さな画面まで)。一九七 (映画評論家, 京都造形芸術大学准教授) から出て」の冒頭部分を引用する。「今語ってい 五年の時点でバルトが記した「映画状況」のリテ

それは違う…と選別を遂行したうえで囲い込む それなりの熱心さで映画館に通う者なら誰し 美術館と似た役割を、今後の映画館は担うので も思い当たるふしのある、映画を観終えたあとの はないか。だとすれば、美術館で映画を観る体験

歩する者は映画の観客になる前から「映画状況」 当なカフェ」を探し当てることも困難かもしれな に飲み込まれ、映画館を後にしてもその余韻か い。しかしそもそも美術館が「映画館の外」であ ら抜け出せずにいる。かれらはその不断の運動 ることを忘れずにいよう。フィルムでの上映が映 画館の条件、との原理に忠実を期すなら京都国 この文章が僕らにとって興味深いのは、「映画 立近代美術館こそが(シネコンの類いよりも)真 館の闇」へのフェティッシュな偏愛が告白される 正な映画館であるかもしれない逆説も含め、美

一方で、そこからの解放(映画館から出ること)の 術館で映画を観ることとは、今日の「映画状況」へ

MoMAK F フィルムが大切に守られてきたのである*。

◆ ○○6 → 映画コレクションから見える フィルムの循環と異文化受容

2008年にアルゼンチンで発見), そのたびに各時

オリジナルに近い148分版を見ることができる。

画ファンやアーキビストから注目されてきた小宮 ける外国映画の受容の歴史が透けて見える占に 複製芸術である映画のフィルムは、容易に国境 登美次郎(1897-1975)のコレクション(3プログラ ある。1911年のフランス映画『ジゴマ』は、青少年 を超えて流通してきた。そのため映画が製作され ム)と、フィルムセンターの主幹として日本のフィル に対する映画の影響力について日本人が議論す た国ではすでに「失われてしまった」と思われてい ム保存に尽力するとともに自身が映画コレクター るきっかけを作った有名な作品である。また、『巨 でもあった鳥羽幸信(1916-1992)のコレクション 人征服』(1923年)はハロルド・ロイドが主演する 帰り」を果たすことも珍しくない。例えばドイツで (1プログラム)である。

日本映画に関していえば、戦前・戦中に製作さ 初期の映画フィルムには、一コマごとに手作業で れた多数の日本映画のフィルムが、1960年代末に 丹念に色をつけたり(ステンシル・カラー)、フィルム アメリカ議会図書館から「里帰り」し(「返還映画」コ 全体を染料で染めたり(染色)、化学変化によって レクション)、さらには1990年代にロシアの国立フィー 色をつける技術(調色)がほどこされていた。世界 ルム・アーカイブからも「里帰り」した(「ゴス・フィル 中に現存するこの時代の映画の多くは、後年白黒 モフォンド」コレクション)。第二次世界大戦という フィルムにコピーされたものであることを考えれば、 板倉史明(神戸大学大学院准教授) 政治状況によって映画フィルムが国境を超えて循 小宮コレクションの価値を容易に推測できるだろ

環し、その結果として、海外で貴重な日本映画のう。また小宮コレクションには、ヨーロッパ本国に

また映画フィルムは、好事家たちによって熱心 フィルムが複数含まれている。今回上映する『さ に蒐集されてきた。東京国立近代美術館フィルム らば青春』(1918年)もその1本であり、2014年に センター(以下、フィルムセンター)には、いくつか フィルムセンターとイタリアの2つのアーカイブが の世界的な個人コレクションが収蔵されている。
共同でデジタル復元を行ったばかりである。 今回MoMAK Filmsに登場するのは、世界の映いっぽう鳥羽コレクションの特徴は、日本にお

おいてすでに「失われた」と思われてきた映画の

アメリカのサイレント喜劇であるが、鳥羽コレクショ 製作されたSF映画の古典『メトロポリス』(フリッツ・ | 浅草の料亭の息子として生まれた小宮は、青 ンのフィルムは、1930年代に日本で独自に再編集 ラング、1927年)のオリジナル・バージョン(153分) 年時代に愛した1910年代のヨーロッパ映画を主 され、活動弁士(説明者)のナレーションがサウンド のフィルムは現存しないが、世界各国に配給され に蒐集し、戦争中は一部のフィルムを「疎開」させ トラックに吹き込まれた珍しいバージョンである。 たフィルムがいくつかの国で発見され(最近では て守り抜いてきた人物である。小宮コレクション 無声映画時代に日本全国の映画館で活躍した の特徴は、のちの時代にコピーされたフィルムを 弁士の語りを追体験できる貴重な機会である。 代の「最長版」が復元されてきた。現在ではほぼ 蒐集したのではなく、1910年代に実際に映画館 ともに、日本人のアメリカ文化受容を知ることの で上映されたフィルムそのものを蒐めた点である。
きる具体例としても興味深い素材であろう。

詳細は拙稿「フィルム・アーカイブにおける映像資料の保存と復

(『歴史評論』715号、2009年11月、歴史科学協議会、41-54)を参照